

「天使の顔のように」 一使徒行伝講解説教 16-

創世記  
使徒行伝

17章 1節～8節  
6章 8節～7章 8節

説教

本庄侑子 牧師

キリスト教会最初の殉教者ステパノの人生最後の言葉をお読みしています。彼は敵意に囲まれていました。人の言葉に傷つき、惨めなはずでした。しかし、ステパノは敵意を返すことも、自己弁護もしませんでした。むしろ神がどれほどに真実な方であるかを語りました。私たちはみな、キリストにあって神に愛され、赦されている。その確信だけが胸に満ちていました。

人々が鬼のよう顔で叫んでいる時、ステパノは天使のような顔をしていました。議会に引っ張り出された時の第一声も、「兄弟たち、父たちよ」(7章2節)でした。殺される瞬間もイエス・キリストの十字架上の祈りを口にして死んでいきました。「主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい」(7章60節)。

ステパノをそのようにしたのは聖霊でした。使徒行伝は聖霊行伝と呼ばれます。ペンテコステの日、天から地上に向かって約束の聖霊が降って始まった物語。聖霊が、人をイエス・キリストと出合わせ、罪の思いから解き放ち、神に應えて歩む人へと造り変えていった物語。

この時のステパノもそうでした。「知恵と御霊」(6章10節)とで語っていました。人々は、生まれながらのステパノから絞り出された何かではなく、ステパノの外から来る力、独り子を十字架につけるほどの圧倒的な神の愛と赦しを見て、天来の言葉を聞いたのです。

聖霊は、イエス・キリストが私の救い主であることをはっきりとさせ、そう告白させてください。自分ではどうしようもできなかった罪を、神である方が、その十字架によって解いてくださった。私の過去の悲しみも、苦しみも、主イエスにあって益へと変えられていくんだ。そう信じることができるようになる。

聖霊はまた、それぞれに召しを受け取らせ、それに応える力を与えてくださいます。私たちは一人一人、全く違う人生を歩んできました。どうして私だけこんな思いをしないとイケないのか。そう人生を呪ったことがあったかもしれない。しかし聖霊は、それらがキリストにあって意味あるものであったことを確信させます。

人が神から来る召しに捉えられ、立ち上がるとうとする時、神はそれでいいのだと言わんばかりにご自身の霊、聖霊をいよいよ注いで、その行いを励まし、助けてくださる。聖霊に満たされたステパノは、旧約聖書にさかのぼって語りかけました。

まずアブラハム。神を知らない世界の中で、神はアブラハムを選んで、出会い、約束してくださいました。『あなたに土地を与え、子孫たちに相続させる』。土地も実の子どももなかったアブラハムにとっては、想像もつかないことでした。しかし、神を信じて歩んだその先に、約束が実現していくこととなりました。

次はヨセフ。少年の頃、彼は兄たちにねたまれ、エジプトへ売り飛ばされてしまいました。たった一人、見知らぬ土地で奴隷として生きた苦難の人生。しかし、そのヨセフを通して、神は一つの家族の憎しみの歴史を、一つの民族を救い出す救いの歴史へとすっかり変えてしまわれました。

次に語られたのはモーセ。モーセは40歳の時、王宮での生活を捨てて立ち上がるも、人々に拒絶されました。その後40年間、荒れ野でひっそりと羊を飼って生活することになりました。しかし、その荒れ野で神はモーセに出会い、「さあ、今あなたをエジプトに遣わそう」と言われたのです。人の目には何も見えないうちから、全て終わったと思える時も、神は歴史を進めておられました。モーセを出エジプトの指導者とするべく、育てておられたのです。

私たちを呼んでくださったお方は、私たちの現実の中で生きて働き、この歴史を導きたもう生ける神です。ステパノも、その生ける神に出会っていただいて、目に映る全てが変わったのです。今ここで働く神を見て、神からの使命に生きるようになった。

ステパノはこの後殺されてしまいます。使命を成し遂げたといっても、ステパノのしたことは無に帰したように見えるかもしれません。しかも、ステパノの死をきっかけにさらなる迫害が巻き起こり、人々は散らされていくことになりました。しかし、その結果、福音も全世界に散らされていくこととなったのです。それはステパノが一生涯かけてもできなかったことでした。

人の目には、今日の場面を支配しているのは人間の憎しみです。しかし、聖霊はキリストにある事実の方をステパノに見せ、神からの使命を全うさせたのです。それも、天使のような顔で、彼らを愛し、赦す聖霊に満たされながら。代々の教会を突き動かしてきたのも、私たちが受けたのも、この聖霊です。

(記 本庄侑子)